

『高校数学でわかるアインシュタイン』訂正・追加表 酒井 邦嘉

再版の訂正・追加

- p.50, 1.2 【速度】太字
- p.50, 1.6 【速度】太字でなくナミ
- p.69, 図5-5 【 t' 】を【 t'_1 】
- p.82, 1.1 【あることが示された。】を【ある。そこで固有時 $\Delta\tau$ は、時間の基準となる。】
- p.82, 下から 1.6 【必ず長くなる。】の後に【古典力学の極限では、 $\Delta t = \Delta\tau$ である。】を追加
- p.123 引用部 【(mathematical beauty)】を【[mathematical beauty]】
- p.214, 下から 1.2 【1955】を【1957】
- p.227とカバー 【客員教授】を【客員研究員】

第3版の訂正・追加

- p.12, 1.10 【証明される。】の後に【この補助線の洞察を味わいたい。】を追加
- p.12, 下から 1.9 【決まった数値】を【物理的な性質として決まった数値】
- p.41, 1.5 【1727】を【1726】
- p.53, 下から 1.3 【 v 】を【 $v (v > 0)$ 】
- p.61, 下から 1.5 【位置にある】を【位置にあり、時間と空間は常に一様】
- p.66, 下から 1.7 【なっているのだ。】の後に改行して【さらに、 $v < c$ で $w < c$ なら、 $c - u > 0$ によって $u < c$ が示される。つまり、どんな速度を合成しても、光速を超えることはない。】を追加（次ページへ2行送り）
- p.82, 1.12 【同じ符合】を【正】
- p.85, 1.4 【質量 m を持つ一般の物体でも】を【光という極限だけでなく、質量 m を持つ物体のエネルギーと時間変位でも】
- p.106, 1.4 【 K 】を【 $t=0$ における K 】
- p.127, 1.6 【だったことを思い出そう】を【だった（斜交軸への長さ比は三平方の定理から $1:\sqrt{1-v^2/c^2}$ ）】
- p.143, 1.10 【約0.05 mm/s 程度と極めて遅い】を【自由電子の密度から約0.07 mm/s と求まる】
- p.163, 下から 1.5 【電場が生じる】を【磁場の時間変化に比例した電場が生じている】
- p.208, 1.3 【ゼロに近づく。】の後に【独立な過程では、 W が掛け算で、 S は足し算だ。】を追加
- p.208, 1.6 【さまざま】を【多様】